

**県立高等学校再編整備等後期実施計画
(球磨地域)**

平成27年3月12日

熊本県教育委員会

目 次

I	計画の概要	ページ
1	計画の目的	1
2	計画の期間	1
3	計画の進め方	1
II	後期の取組に関する再編整備等計画	
1	球磨地域における再編・統合の考え方	2
2	再編・統合後の球磨地域の高校の在り方	2
3	新校A（現球磨商業高校校地）	3
4	新校B（現南稜高校校地）	5
	〔参考資料〕	8

I 計画の概要

1 計画の目的

この計画では、「県立高等学校再編整備等基本計画」において後期の取組として示した球磨地域の再編整備について、その実施のために、新校の学校像、開校年度、学校規模、学科及び教育内容の特徴等を具体的に示す。

2 計画の期間

平成27年度から平成29年度までの3年間とする。

3 計画の進め方(実施計画策定後)

- (1) 母体校（再編整備によってできる新校の母体となる学校）に「新校開設準備室（仮称）」を設置し、再編整備に伴う新校開設の準備を進めていく。
- (2) 本計画で示した内容については、これを基に、地元関係者を含めた検討組織も設置するなど、地域の意見もくみ上げながら、具体的な検討を行う。

* 開校までに検討・準備が必要な事項例

教育方針、学科、校名、校歌、校章、教育課程、制服等

Ⅱ 後期の取組に関する再編整備等計画

1 球磨地域における再編・統合の考え方

(1) 多良木高校、球磨商業高校及び南稜高校の3校を、2校の新しい学校（仮称：新校A及び新校B）として発展的に再編・統合し、現在の学科を生かした学科を設ける。

(2) 新校Aを現球磨商業高校の校地に、新校Bを現南稜高校の校地に設置する。

なお、現多良木高校の施設設備の利活用については、地元の自治体や学校、県教育委員会等との協議の場を設け、地元の意見を十分聞きながら取り組む。

(3) 新校の開設以前に再編対象校（多良木高校、球磨商業高校及び南稜高校）に入学した生徒については、当該校で卒業させることを原則とする。また、再編対象校は、新校開設と同時に募集を停止するが、募集停止後2年間は当該校の校地で存続することとする（新校開設の2年後に閉校となる）。

再編対象校に在籍する生徒に対しては、閉校までの間、教育環境の維持・確保を図るとともに、教育効果向上の観点から支障が生じることのないよう最善の措置をとる。

2 再編・統合後の球磨地域の高校の在り方

(1) 新校Aには、生徒の幅広い進路希望に応じつつ、地域と一体となった教育活動を展開するとともに、商業の専門性を生かし、新校B及び球磨工業高校との連携を深めることで、球磨地域全体のさらなる活性化につながる拠点校としての機能を持たせる。

また、新校Bには、地域の基幹産業である農林業と生命の源である「食」との関連を深めるとともに、6次産業化等を推進し、今後の球磨地域における農林業の在り方を地域に提言・発信していく機能を持たせる。

加えて、健康・福祉の向上につながる教育活動を展開し、球磨地域のスポーツ振興や社会福祉の充実・発展に資する。

(2) 新校以外にも、地域の進学重点校としての人吉高校や、「ものづくり」を主体とした専門技術者の育成を目指す球磨工業高校、さらには特別支援教育の地域センター的機能を担う球磨支援学校について、さらに特色ある学校づくりを進めるための方策を検討するなど、球磨地域の各校の位置づけ（特色・役割等）を明確にすることで、球磨地域の取組みが県内各地域の高校教育の方向性を示すモデルとなるようにする。

3 新校A（現球磨商業高校校地）

（1）新校の学校像

- ・進学から就職に至るまでの生徒の幅広い進路希望に応じた教育活動を展開することで、豊かな人間性を育み、社会に即応できる人材を育成する。
- ・商業に関する専門性の高い学習活動に取り組むとともに、学科の枠を超えての科目選択履修や生徒間の交流を深めることで、お互いに切磋琢磨できる学校づくりを推進する。

（2）新校の開校年度

- ・平成29年度

（3）新校の学校規模

- ・募集定員 160人（4学級）

（4）新校において設置する学科

- ①商業系学科2学級
- ②情報処理系学科1学級
- ③総合系学科1学級

※学科については、今後、新校開設の準備を進める中で具体的に検討する。

（5）教育内容の特徴

- ・地元の企業経営者との交流活動や海外研修等を通して、幅広い視点から球磨地域の現状や課題に対する理解を深めることにより、生徒が地域の魅力を再認識し、地域で生きていくことの意義を見い出すような教育活動（いわゆる「球磨地域学（仮称）」といった学校設定科目の設置等）に取り組む。（新校A・新校B共通）
- ・商業の専門性を生かしつつ、新校B及び球磨工業高校と連携した学習活動として、生徒が様々な分野における仕事の意義や役割を理解し、将来に対する明確なビジョンを持って進路選択を行うことができるような教育プログラムの導入を検討する。

【商業系学科】

- ・ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、主として簿記や財務会計などに関する幅広い知識や技術の習得を図り、ビジネス社会に即応できる創造的な能力と実践的な態度を育成する。

【情報処理系学科】

- ・ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、主として情報処理や電子商取引などに関する幅広い知識や技術の習得を図り、ビジネス社会に即応できる創造的な能力と実践的な態度を育成する。

【総合系学科】

- ・多様化する社会に対応するための幅広い知識や教養を身に付けさせ、上級学校への進学や公務員、地元企業への就職等、生徒の幅広い進路に対応するために必要な能力と実践的な態度を育成する。

(6) その他

- ・総合選択制を導入することで、進路希望に応じて必要な科目の選択履修が可能となるようにする。

【総合選択制の活用例】

- ・専門学科の生徒が総合系学科及び他の専門学科の科目を履修し、産業への理解を深め進路選択に役立てる。
- ・総合系学科の生徒が専門学科の科目を履修し、商業・情報処理への理解を深め進路選択に役立てる。

4 新校B（現南稜高校校地）

（1）新校の学校像

- ・生産や加工といった基礎的な知識や技術の習得に加え、流通や販売等、経営的な視点も大切にした教育活動を展開することで、地域の農林業及び関連産業を支える人材を育成する。
- ・農業に関する専門性の高い学習活動に取り組むとともに、学科・コースの枠を超えての科目選択履修を行うことで、球磨地域の重要な基幹産業である農林業をはじめ、健康・福祉などの幅広い分野に対応できる学校づくりを推進する。

（2）新校の開校年度

- ・平成29年度

（3）新校の学校規模

- ・募集定員200人（5学級）

（4）新校において設置する学科

- ①農業生産系学科2学級
- ②食品系学科1学級
- ③生活系学科1学級
- ④普通系学科1学級（体育系コース、福祉系コース）

※学科については、今後、新校開設の準備を進める中で具体的に検討する。

（5）教育内容の特徴

- ・地元の企業経営者との交流活動や海外研修等を通して、幅広い視点から球磨地域の現状や課題に対する理解を深めることにより、生徒が地域の魅力を再認識し、地域で生きていくことの意義を見出すような教育活動（いわゆる「球磨地域学（仮称）」といった学校設定科目の設置等）に取り組む。（新校A・新校B共通）
- ・地元の農業経営者や国内外の有識者との交流活動等を通して、幅広い視点から球磨地域の基幹産業である農林業の現状や課題に対する理解を深めることにより、生徒が地域における農林業の多様な可能性を認め、地域に提言していくことができるような教育活動（いわゆる「球磨農林学（仮称）」といった学校設定科目の設置等）に取り組む。

- ・新校Aと連携しながら、地元関連企業への訪問活動等を行うことにより、生徒が農産物等の生産から加工、流通及び販売に至るまでの一連の活動を実体験し、「人が生きること」の意味や「食」に関わる仕事の意義を考えられるよう、教育課程を工夫する。

【農業生産系学科】

- ・農業や林業に関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付けさせるとともに、将来にわたる農林業の持つ可能性を認め、新しい時代の農業関係分野の発展に貢献できる創造的な能力と態度を育成する。

【食品系学科】

- ・農畜産物の加工や食品衛生などに関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付けさせるとともに、科学技術や食品産業の進歩に対応し、その発展に貢献できる創造的な能力と態度を育成する。

【生活系学科】

- ・農業や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付けさせるとともに、「農業」と「食」とが一体となった新たな生活文化の創造に向けて、様々なサービス分野で地域に貢献できる能力と態度を育成する。

【普通系学科】

〈体育系コース〉

- ・健康や体育に関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付けさせ、生涯にわたってスポーツ振興や健康増進に貢献する能力や実践的な態度を育成する。

〈福祉系コース〉

- ・福祉に関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付けさせ、社会福祉の充実・発展に貢献する能力や実践的な態度を育成する。

(6) その他

- ・総合選択制を導入することで、進路希望に応じて必要な科目の選択履修が可能となるようにする。

【総合選択制の活用例】

- ・専門学科の生徒が普通系学科及び他の専門学科の科目を履修し、農・食、健康・福祉といった分野を学ぶことにより、自らの専門分野への理解を深め、進路選択に役立てる。
 - ・普通系学科の生徒が専門学科の科目を履修し、農業への理解を深め進路選択に役立てる。
- ・農業生産系学科においては、生徒自らの進路希望等に応じてより専門性の高い教育が受けられるよう、2年次から類型を設けることを検討する。

【類型】

- ・1年次は、共通科目として基礎的・基本的な内容を幅広く学習し、2年次以降は、生徒の興味・関心や進路希望等に応じて、特定の分野に重点を置いたより専門性の高い学習ができるよう、生徒は、あらかじめ設定された複数の教育課程の型の中から、いずれかの型を選択して学習する。

〔参考資料〕

1 球磨地域における再編対象校の入学者数の動向

	定員	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
多良木高校	120	57	89	85	116	84	109	69	64
普通科	80	26	56	48	73	46	65	37	23
普通科(体育コース)	20	11	17	19	21	22	22	17	20
普通科(福祉教養コース)	20	20	16	18	22	16	22	15	21
球磨商業高校	200	180	182	139	168	116	110	110	102
総合ビジネス科	120	109	119	82	103	70	74	54	58
情報処理科	40	40	39	30	39	30	20	40	28
国際教養科	40	31	24	27	26	16	16	16	16
南稜高校	240	232	231	190	191	144	149	142	157
生産科学科	80	84	80	64	74	45	52	41	49
園芸科学科									
環境工学科	40	24	38	20	25	15	13	19	21
食品科学科	40	42	40	40	40	38	29	39	40
生活経営科	40	41	40	28	27	34	34	16	22
普通科(総合コース)	40	41	33	38	25	12	21	27	25

2 球磨地域における中学校卒業（予定）者数の動向

卒業年（平成）	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
	H24.3卒	H25.3卒	H26.3卒	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1
卒業（予定）者数	1,014	947	885	878	910	879	887	812	872	802	776	854

※平成27年以降については、平成26年5月1日現在の在籍者数

＜球磨地域＞ 県立学校の配置



